

令和5年度 りんご病害虫防除暦

ながのブロック 飯綱地区

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍 率	散布量 (10a当り)		対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
					(動噴)	(SS)				
1 発芽10日前 月 日	1 —	水 ベンレート水和剤 スプレーオイル	98 ℓ 50 g 2 ℓ	2,000 倍 50 倍	450 ℓ	350 ℓ	腐らん病 ハダニ カイガラムシ	休眠期 発芽前	4回以内 —	○ベンレート水和剤に替えて石灰硫黄合剤10倍を使用する場合は水88ℓにスプレーオイル(2ℓ)を先に溶かし、石灰硫黄合剤(10ℓ)を後から加える。 ○温暖無風の日を選び、幹や枝を洗うように散布する。 ○腐らん病、イボ皮病(輪紋病)の患部はきれいに削り塗布剤を塗布する。また剪定はデベソ切りせず、切り口にはトップジンMペースト等を塗布する。 ○カイガラムシの発生が多い場合は、アプロードフロアブル1,000倍(100mℓ・30日前まで)を加用散布する。
2 4月中旬 展葉初期 展葉中期 月 日	M7	水 展着剤(マイリノー) ㊟ ベフラン液剤25	100 ℓ 5 mℓ 100 mℓ	20,000 倍 1,000 倍	450 ℓ	350 ℓ	うどんこ病 黒星病 腐らん病	7日前まで	— 3回以内	○地域全体の菌密度が高くなっているため必ず散布する。 ○開花期までに降雨日が続く場合は、黒星病対策として2回目の防除実施から7～10日後にストライド 顆粒水和剤1,500倍(66g)を特別散布する。
3 開花始 (1～2分咲) 月 日	28 9	水 展着剤(マイリノー) サムコルフロアブル10 ユニックス顆粒水和剤47	100 ℓ 5 mℓ 20 mℓ 50 g	20,000 倍 5,000 倍 2,000 倍	600 ℓ	500 ℓ	黒星病 (赤星病) 黒点病 うどんこ病 ハマキムシ ケムシ類 キンモンホリガ	前日まで 14日前まで	3回以内 4回以内	○開花状況を良く観察し、園地ごとに適期防除に努める。 ○赤星病の発生が心配される園ではスコア顆粒水和剤3,000倍(33g・14日前まで)を加用散布する。 ○開花始めまでにケムシ類の発生が心配される場合はチューンナップ顆粒水和剤2,000倍(50g・前日まで)またはバイオマックスDF2,000倍(50g・前日まで)を加用、または必じて特別散布する。
4 落花期 月 日	7	水 展着剤(マイリノー) ㊟ カナメフロアブル クレミクスネオ	100 ℓ 5 mℓ 25 mℓ 300 g	20,000 4,000 倍	600 ℓ	500 ℓ	黒星病 赤星病 黒点病 うどんこ病 (腐らん病) (ハマキムシ) (ケムシ類) (キンモンホリガ) (カメムシ) (アブラムシ)	前日まで	3回以内	○この散布は前回から10日以内に行う。 ○アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF2,000倍(50g・14日前)を加用散布する。 ○9回目防除まで、果実の日持ち性向上とビタービット、コルクスポットの発生軽減のためにカルシウム剤(ストビットII 500倍)を混用する。カルシウム剤の混用は薬剤調合の一番最後にする。
<p>★ふじの薬剤摘果は、結実確保された時点(受粉後2日後)より1日おきに石灰硫黄合剤120倍(830mℓ・2回以内)またはエコーキー100倍(1kg・2回以内)を散布する。 ★ふじの薬剤摘果には、満開から2週間頃(目通りの中心花の横径が大半8～10mmの時)に㊟ミクロテナホン水和剤1,200倍(83g・2回以内)を散布する。尚、展着剤はアプローチBI 300倍(333mℓ)または、ニース1,000倍(100mℓ)を使用する。 ★ナシヒメコンを設置する場合は、5月上旬までに10a当たり100本を、樹の目通りの高さに設置するとナシヒメコンクイに効果ある。</p>										

<p>5 5月中旬 前回散布より 14日以内</p> <p>落花10日</p> <p>月 日</p>	<p>M3</p> <p>4</p>	<p>水 展着剤(マイリノー)</p> <p>ジマンダイセン水和剤</p> <p>ダントツ水溶剤</p> <p>クレミクスネオ</p>	<p>100 ℓ 5 mℓ</p> <p>200 g</p> <p>50 g</p> <p>300 g</p>	<p>20,000 倍</p> <p>500 倍</p> <p>2,000 倍</p>	<p>600 ℓ</p>	<p>500 ℓ</p>	<p>(うどんこ病) 黒星病 褐斑病 炭そ病 (赤星病) 黒点病 斑点落葉病 アブラムシ シンクイムシ (ハマキムシ) リンゴワタムシ キンモンホリガ カメムシ (ハダニ) クワコナカイガラ</p>	<p>30日前まで</p> <p>前日まで</p>	<p>4回以内</p> <p>3回以内</p>	<p>○黒点病の発生が年々増えているので、この防除は前回より14日以内に散布する。</p>
<p>6 6月上旬</p> <p>前回散布より 14日以内</p> <p>月 日</p>	<p>M3</p> <p>1</p>	<p>水 展着剤(マイリノー)</p> <p>アントラコール顆粒水和剤</p> <p>サイアノックス水和剤</p> <p>ストピットⅡ</p>	<p>100 ℓ 5 mℓ</p> <p>200 g</p> <p>100 g</p> <p>200 g</p>	<p>20,000 倍</p> <p>500 倍</p> <p>1,000 倍</p>	<p>600 ℓ</p>	<p>600 ℓ</p>	<p>黒星病 褐斑病 炭そ病 (赤星病) 黒点病 斑点落葉病 (アブラムシ) シンクイムシ ハマキムシ リンゴワタムシ (キンモンホリガ) (カメムシ) (ハダニ)</p>	<p>45日前まで</p> <p>14日前まで</p>	<p>4回以内</p> <p>1回</p>	<p>○間断なく降雨が多い場合は10日間隔で散布する。 ○カイガラムシの発生が見える園ではアプロードフロアブル1,000倍(100mℓ・収穫30日前まで)を加用散布する。 ○防除効果を上げるため徒長枝の間引きを行う。 ○サイアノックス水和剤に替えて、㊸ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g・30日前まで)を使用してもよい。</p>
<p>7 輪紋病・ 炭そ病対策 6月下旬 前回散布より 14日以内</p> <p>月 日</p>	<p>4</p> <p>M4+M1</p> <p>1</p>	<p>水 展着剤(アピオンE)</p> <p>㊸ ハリアート顆粒水和剤</p> <p>オキシラン水和剤</p> <p>トップジンM水和剤</p> <p>ストピットⅡ</p>	<p>100 ℓ 50 mℓ</p> <p>50 g</p> <p>200 g</p> <p>66 g</p> <p>200 g</p>	<p>2,000 倍</p> <p>2,000 倍</p> <p>50 倍</p> <p>1,500 倍</p>	<p>600 ℓ</p>	<p>600 ℓ</p>	<p>輪紋病 炭疽病 斑点落葉病 黒点病 すす点・すす斑病 褐斑病 シンクイムシ (ハマキムシ) キンモンホリガ アブラムシ</p>	<p>30日前まで</p> <p>前日まで</p>	<p>1回</p> <p>3回以内</p>	<p>※炭疽病、褐斑病対策として、散布ムラがないように防除する。 ○オキシラン水和剤+トップジンM水和剤に替えて、ラビライト水和剤500倍(200g・30日以内)を使用してもよい。</p>

8 7月上旬 前回散布より 14日以内 月 日	28 11 9 23	水 展着剤(スカッシュ)	100 ℓ 100 mℓ	1,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	褐斑病 黒星病 黒点病 すす点・すす斑病 斑点落葉病 輪紋病 炭疽病 ハダニ シクイムシ ハマキムシ キンモンホソガ (キンモンハモグリガ) アブラムシ類	前日まで 前日まで 14日前まで 7日前まで	3回以内 4回以内 4回以内 1回以内	○干ばつ防止に草の刈り込みと敷きワラを行う。 ○散布前に支柱立て、枝吊りを行う。 ○ニセアカシアやクルミなど炭そ病の伝染源となる樹木との隣接園では、感染が始まる重要な時期なので特に丁寧に散布する。 ○アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF 4,000倍(25g・14日前まで)を加用散布する。 ○エコマイル粒水和剤に替えて、ダニケッターフロアブル2,000倍(50mℓ・前日まで)用してもよい。但し、開花期以降の水稲にかかると薬害(不稔)を生じるため注意する ○エクシレルSEに替えて、サムコルフロアブル10 5,000倍(20mℓ・前日まで)を使用しよい。
		エクシレルSE	20 mℓ	5,000 倍						
		フリントフロアブル25	50 mℓ	2,000 倍						
		ユニックス顆粒水和剤47	50 mℓ	2,000 倍						
	23	エコマイル顆粒水和剤	50 g	2,000 倍						
		ストピットII	200 g							
9 7月中下旬 前回散布より 14日以内 月 日	20 4 M7+M4	水 展着剤(スカッシュ)	100 ℓ 100 mℓ	1,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	輪紋病 炭疽病 斑点落葉病 黒点病 すす点・すす斑病 褐斑病 ハダニ アブラムシ シクイムシ類 キンモンホソガ キンモンハモグリガ (カメムシ) (リンゴワタムシ) (クワコナカイガラ)	7日前まで 前日まで 前日まで	1回以内 3回以内 3回以内	○カミキリムシの発生が多くなる時期なので捕殺に努める。(日没から2時間位) ○カネマイルフロアブルに替えて、マイルコーネフロアブル1,000倍(100g・前日まで)を使用しても良い。 ○モモ隣接園では農薬が飛散しないように注意する。 ○褐斑病の心配される園ではオンリーワンフロアブル2,000倍(50mℓ・7日まで)を加用または特別散布してもよい。
		カネマイルフロアブル	100 mℓ	1,000 倍						
		Ⓢ モスピラン顆粒水溶剤	50 g	2,000 倍						
		ダイパワー水和剤	100 g	1,000 倍						
		ストピットII	200 g							
10 8月上旬 月 日	3 M7 M4 12	水 展着剤(マイリノー)	100 ℓ	20,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	輪紋病 炭疽病 斑点落葉病 黒点病 すす点・すす斑病 褐斑病 シクイムシ アブラムシ キンモンホソガ ハダニ (ハマキムシ) (カイガラムシ)	前日まで 前日まで 前日まで 3日前まで	3回以内 3回以内 6回以内 1回以内	○オマイル水和剤を使用する際は、薬害防止のため展着剤スカッシュは使用しない。(葉が黄変する場合あり) ○散布後3日間は収穫を行わない。 ○モモ隣接園では農薬が飛散しないように注意する。
		アーデントフロアブル	50 mℓ	2,000 倍						
		Ⓢ ベフラン液剤25	66 mℓ	1,500 倍						
		オーソサイド水和剤80	125 g	800 倍						
		オマイル水和剤	133 g	750 倍						

11 8月中下旬 月 日	11+7 4	水 展着剤(マイリノー) ナリアWDG ㊦ ハリアート顆粒水和剤	100 ℓ 5 mℓ 50 mℓ 50 g	20,000 倍 2,000 倍 2,000 倍	600 ℓ	600 ℓ	輪紋病 斑点落葉病 炭疽病 すす点・すす斑病 褐斑病 ハダニ シンクイムシ キンモンホソガ キンモンハモグリガ アブラムシ リンゴワタムシ	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	○ハダニの発生が見られる場合には、アカリタッチ乳剤2,000倍(50mℓ・前日まで)を加用散布する。
12 9月上中旬 月 日	5 P7+M4	水 展着剤(マイリノー) ディアナWDG アリエッティC水和剤	100 ℓ 5 mℓ 10 g 125 g	20,000 倍 10,000 倍 800 倍	600 ℓ	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 炭疽病 黒星病 褐斑病 すす点・すす斑病 (アブラムシ) シンクイムシ ハマキムシ キンモンホソガ キンモンハモグリガ	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	○散布前に徒長枝の整理を行う。 ○ハダニが多発している園ではコロマイト乳剤1,000(100mℓ・前日まで)を加用散布する。 ○ワタムシの発生が多い場合は、ディアナWDGに替えて、㊦イカズチWDG 1,500倍(66g・前日まで)を使用しても良い。 ○果実の汚れ軽減対策として展着剤マイリノーに替えて展着剤ササラ2,000倍(50mℓ)を使用しても良い。
13 9月下旬 月 日	P7+M4	水 展着剤(マイリノー) アリエッティC水和剤	100 ℓ 5 mℓ 125 g	20,000 倍 800 倍	600 ℓ	600 ℓ	斑点落葉病 輪紋病 炭疽病 黒星病 褐斑病 すす点・すす斑病 (シンクイムシ) (キンモンホソガ) (キンモンハモグリガ) (アブラムシ) (リンゴワタムシ)	前日まで	3回以内	○ワタムシの発生が多い場合はトランスフォームフロアブル2,000倍(50g・前日まで)を加用散布する。 ○果実の汚れ軽減対策として展着剤マイリノーに替えて展着剤ササラ2,000倍(50mℓ)を使用しても良い。
14 10月上旬 月 日	M11	水 展着剤(マイリノー) ストライト顆粒水和剤	100 ℓ 5 mℓ 66 g	20,000 倍 1,500 倍	600 ℓ	600 ℓ	すす点・すす斑病 黒星病	前日まで	3回以内	○すす病の果実被害が心配されるため、この防除は必ず実施する。 ○ストライト顆粒水和剤は高温時に散布すると薬害を生じる恐れがあるので注意する。また、皮膚の敏感な人はかぶれる恐れがあるため、ストライト顆粒水和剤に替えて㊦ペフラン液剤25 1,500倍(66mℓ・前日まで)を使用しても良い。
越年雑草の抑制に、ラウンドアップマックスロードの秋冬季散布を落葉前に100～200倍で実施する。(10a当り薬量 500mℓ～1,000mℓ 収穫7日前まで)										
特別散布 12月初旬 月 日	M2	水 固着剤(アピオンE) 石灰硫黄合剤	90 ℓ 100 mℓ 10 ℓ	1,000 倍 10 倍	450 ℓ	350 ℓ	腐らん病	休眠期	-	○腐らん病発生の多い園では必ず散布する。